

財務 VOL.16

お金を残すために③:資金繰りとは(後編)

前号では、病院を運営した結果増減するお金を指し示す“営業収支”についてご説明致しました。

今号では、前号で申し上げましたように引き続き資金繰り予定表のご説明を致します。

【財務等収支とは】

まず、「財務等」というと内容が想像しづらいかもしれませんが、主に営業活動をするための資金調達や返済をすること(財務活動と言います)や、設備投資や設備売却による入出金(投資活動と言います)とお考え下さい。

では、具体的に財務等収入にはどんなものが該当するのかというと、金融機関からの借入金や、医療機器や建物等の資産を売却した代金の入金該当します。

そして、それらを分類するならば、例えば、

- ① 借入金 … 金融機関からの借入金入金
- ② 設備売却収入 … 資産を売却したお金
- ③ その他財務等収入 … ①②以外のお金の入金

のようになります。

次に、財務等支出については収入の反対で、借入金返済の元本部分や、医療機器や建物等といった資産の購入代金が該当することになりますので、これらを分類しますと、

- ① 借入金返済 … 借入金返済の元本部分
- ② 設備投資 … 医療機器等の資産の購入
- ③ その他財務等支出 … ①②以外の支払

のようになりますが、財務等収入も支出も借入金返済以外、普段はあまり使用しませんので、あまり細分化する必要はないかと思います。

そして、財務等収入から財務等支出を差引いたものが、“財務等収支”となり、この財務等収支は新規借入や資産を売却しない限りプラスに転じることは基本的にありません。

また、この財務等収支のマイナスは、営業収支のプラスで補うこととなりますので、「営業+財務等>0円」でない和生活費の支出が出来なくなりますので、話になりません。

ですので、「営業+財務等<0円」である場合は、早急にリスケ(借入金返済期間の延長)等により借入金返済額を圧縮する等の手を打たないと、資金が枯渇し身動きが取れなくなる可能性がありますので、ご注意下さい。

■ おしらせ

レポートの内容は、基本的に弊社が体験した経営上の課題を分かりやすく解説し、少しでも日々の経営に役立てて頂けるように作成しておりますが、「もっと詳しく知りたい」・「こんな話題も取り上げて欲しい」等のご要望がございましたら、**倶楽部会員専用メールアドレス**にてお問合せ下さい。また、「具体的な相談に乗って欲しい」というご要望がございましたら、「**無料経営相談**」をお申込み下さい。詳しくは、<http://now.amcp.biz> をご覧下さい！

【個人収支とは】

さて、最後に個人収支についてですが、こちらは事業用通帳から、事業に関係のない生活費等のお金の入出金をまとめたものとなります。

個人収入には、先生個人のサイフから立替払いした経費や、個人用通帳から事業用通帳へ入金したものの、事業所得以外の収入(学校医報酬等)が該当しますので、これらを分類するならば、

- ① 先生立替 … 先生のサイフから立替払いしたお金
- ② 給料等 … 学校医報酬等の入金
- ③ その他収入 … ①②以外のお金の入金

となります。

次に、個人支出ですが、こちらは生活費の出金や、事業用通帳から引落している年金や健康保険等の事業とは関係無い支出が該当することになり、それらを分類しますと、

- ① 生活費 … 生活費の支出
- ② 年金・健康保険等 … 年金や健康保険等の支出
- ③ その他支出 … その他事業に関連しない支出

のようになります。もちろん、収入・支出の分類も一例ですので、先生が管理しやすいように分類なさってください。

そして、個人収入と個人支出との差額が“**個人収支**”となります。

個人収支も財務等と同様に、事業所得以外の収入が多くない限りプラスに転じることがなく、個人収支も営業収支のプラスで補うこととなりますので、「営業+財務等+個人>0円」でなければ、お金が減り続けることになるのです。

【お金の管理は何よりも重要】

以上、2回にわたり資金繰り予定表の基本的な内容をご説明致しました。

損益がプラスであっても、お金がマイナスでは病院の存続は望みませんので、お金は損益以上に厳格に管理しなければなりません。

その為にも、この資金繰り予定表を作成して、お金の流れを把握し、管理することをお勧めいたします。

次号では、資金繰り予定表の活用法を、実例を交えてご説明いたしますので、ご期待下さい。